

令和5年度園評価に関する報告書

1. 園の目標

雑草のようにたくましい子、思いやりのある優しい子、ルールを守れる子に育てる

- 1 基本的生活習慣の自立に向けて“やりたい”という気持ちを大切にしながら、自立心を育てる。
- 2 生活や遊びの中で、豊かな言葉のある環境に留意し、正しい言葉を身につけ表現力の基礎を培い、情緒の安定を図る。
- 3 家庭的な雰囲気の中で、子どもが子どもの中で育ちあう環境の下、子ども同士が自由に遊ぶことにより育つ、人を思う優しさを育む。
- 4 友だちと楽しく生活する中で良いこと・悪いこと・きまりの大切さに気づき守ろうとし、人と関わる力を育む。
- 5 遊びや生活の中で、子どもの驚きや不思議に思うことを大切に受け止め、探究心・思考力を育み最後までがんばる粘り強さ「生きる力」「人を思う優しさ」を育む。

2. 達成に向けた具体的な取り組みの計画

1. 子どもたちが意欲的に進んで活動できるよう、家庭と連携し生活リズムを整える。
2. 子どもの言葉を大事に、その中にある意味を組みとり受け止めながら、自分の思いを表現したり、相手の思いを聞いたり共感したりしながら遊ぶ経験を積み重ねる。
3. 色々な事に興味を持ち、「なぜ」「どうして?」と考え、工夫したりして遊びを展開し考える力を培う。又、子どもたちにとってすべての活動が心地よく主体的に打ち込める環境作りをしていく。
4. 様々な年間行事、異年齢保育、小中学校児童との交流、食育活動、地域の行事交流等を通して異年齢の友だち、先生、地域の方たちとの関わりや触れ合う中で優しさ、思いやり、約束・ルール、マナーの守れる協調性、社会性を育てながら、心も育てていく。
5. グループ活動、また専門講師による指導を通して、色々な活動に興味を持ち、「もっとやってみたい。できるようになりたい」という気持ちや最後まで頑張る粘り強さと主体性をもって取り組み子どもたちの達成感や自己肯定感を高める。

3. 評価と課題

1. 基本的生活習慣の確立に向けて、一人ひとりのペースを保育者間で共有し取り組みやすい環境を整え、子どものやりたい気持ちやがんばろうとする姿につながられた。また、日々の会話の中や連絡帳、個人懇談などを通して、今の子どもたちの発達や成長を共通理解できるような関係づくりに努め、保護者の方と一緒に自立心の育ちを見守っていくことができた。
2. 子どもからの気づきや発見等を友だちや保育者と共感する中で、言葉や身振り、視覚的なツールで人に伝わったうれしさや認められる経験を通して、相手の思いを聞いてみる事や言葉で伝え合う力が育まれた。
まねっこ遊びや歌遊び、絵本等の遊びの中でも、色々な言葉の持つ面白さや美しさの表現に子どもたちとともに触れる機会をたくさん経験し、さらに保育者自身も言葉の豊かさを広げていけるようにしていく。
3. 子どもたちが楽しみたい遊びを選択できる環境を設定し、その子なりに好きな遊びや「こうしたい」という思いを持って遊んでいる。遊びの内容が同じ子どもたちの集まりのため、子ども同士が工夫したり考えたり協力したり遊びが展開していく中では、もっと遊び込めるような環境構成を工夫していく。
4. ルールのある遊びをたくさん経験しながら、ルールを守る大切さを知り、時には仲間同士でルールを作って遊びを展開して進めていく中で協調性が育っている。
今年度は活動の幅が広げられ、他機関との交流を再開する事ができた。異年齢交流も積極的に組み入れて活動していたが、感染症の流行がくり返し起き、後半はほとんど取り組めていなかった。年齢が異なる友だちとの関わり方が自然と学べていたので、次年度は1年を通して柔軟に取り組めるように計画を立てる。
5. グループ活動や専科レッスンを通じて学んだ事を自分なりに取り入れて、工夫や応用して楽しんでいる。様々な発見や楽しさを経験する中で、実現できることが増え、最後まで頑張る粘り強さや達成感を味わうことができた。
次年度はさらに科学遊びなどを通して、子どもたちの興味・関心を広げていきたい。